

衛 生 学

1 構 成 員

	平成11年3月31日現在	平成12年3月31日現在
教授	1人	1人
助教授	1人	1人
助手（うち病院籍）	2人 (0人)	2人 (0人)
大学院学生（うち他講座から）	0人 (人)	0人 (人)
研究生	0人	0人
外国人客員研究員	0人	0人
技官	0人	0人
その他（技術補佐員等）	1人	1人
合計	5人	5人

非常勤講師	6人	7人
-------	----	----

2 教官の異動状況

青木 伸雄（教授）（期間中現職）

杉本 弘司（助教授）（期間中現職）

鈴木（中村）美詠子（助手）（期間中現職）

久保 伸朗（助手）（～H10.4.30聖隷浜松病院，H10.5.1～現職）

3 研究業績

	平成10年度	平成11年度
原著論文数（うち邦文のもの）	4編 (3編)	1編 (0編)
そのインパクトファクター合計	11.793	0
論文形式のプロシーディングズ数	0編	0編
総説数（うち邦文のもの）	8編 (8編)	2編 (2編)
そのインパクトファクター合計	0	0
著書数（うち邦文のもの）	0編 (編)	0編 (編)
症例報告数（うち邦文のもの）	2編 (2編)	0編 (編)
国際学会発表数	0編	0編

(1) 原著論文（当該教室所属の人全部に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 青木伸雄、中村美詠子、堀部博（1998）眼底検査の意義と正しい食生活．日本循環器管理研究協議会雑誌 33:146-150

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

① Eastern Stroke and Coronary Heart Disease Collaborative Research Group (A Rodgers, S MacMahon, T Yee, T Clark, B Zhou, H Zhang, M Nakamura, N Aoki, and the Akabane Group, L Liu, J Xie, Y Ling, SY Wang, X Wu, Y Wu, A Tamakoshi, S Li, X Fang, Z Chen, Z Xu, H Horibe, and the Shirakawa Study Group, H Adachi, Y Koga, Z Li, H Zhang, Y He, TH Lam, S Suzuki, R Sasaki.) (1998) Blood Pressure, cholesterol, and stroke in eastern Asia. THE LANCET 352:1801-1807

② Masayo Kojima, Kenji Wakai, Takashi Kawamura, Akiko Tamakoshi, Rie Aoki, Yingsong Lin, Toshiko Nakayama, Hiroshi Horibe, Nobuo Aoki and Yoshiyuki Ohno. (2000) Sleep patterns and total mortality: A 12-year follow-up study In Japan. J Epidemiol 10:87-93.

③ 堀部博, 松谷康子, 加賀谷みえ子, 青木伸雄, 中村美詠子, 上島弘嗣, 岡山明（厚生省第4次循環器疾患基礎調査心電図診断グループ 平成7年度厚生省高齢者の循環器疾患による生活の質の低下予防策に関する研究班）（1999）全国調査による心電図所見の生命予後に関する研究. 日本循環器管理研究協議会雑誌 34:1-9.

④ 吹野洋子, 青木伸雄, 加藤由紀子, 渡辺力, 中村美詠子, 谷水敏子（1999）高齢者の緑茶飲用と健康との関連. 厚生の指標 46:10-17

インパクトファクターの合計 小計 10年度 [11.793] 11年度 [0]

D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの（すなわち、浜松医科大学に移動する以前になされたもの）

(2) 論文形式のプロシーディングズ

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者、共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが、当該教室に所属する者が含まれるもの

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

① 中村美詠子, 青木伸雄, 久保伸朗, 中島務, 星野知之, 横山徹爾, 森岡聖次, 川村孝, 田

中平三, 橋本勉, 大野良之, 福田論, 宇佐見真一, 喜多村健, 神崎仁, 福島邦博, 牧島和見, 東野哲也 (1999) Pooled controlを用いた突発性難聴の症例対照研究-聴力型を用いた全国調査成績の検討. 厚生省特定疾患に関する疫学研究班 平成10年度研究業績集 133-138

- ② 中村美詠子 (1998) 「国民栄養調査方式」による食事調査の課題. 平成9年度 保健医療福祉地域総合調査研究報告書 地域保健部門における食事調査のデータマネージメントに関する研究 7-9
- ③ 青木伸雄, 中村美詠子, 久保伸朗, 堀部博, 内藤喜久枝, 中神未季 (1999) 赤羽根町における高齢者健康指標と疾病保有状況, 社会福祉資源利用状況との関連. 平成10年度厚生省老人保健事業推進費等補助金による循環器疾患患者の日常生活活動阻害要因・予後と今後予想される社会的負担事業報告書 98-107.
- ④ 青木伸雄, 中村美詠子 (1999) 平成10年度県民健康基礎調査報告書<調査の概要, 調査結果の概要, 集計成績>.
- ⑤ 青木伸雄, 中村美詠子, 久保伸朗, 内藤喜久枝, 中神未季 (2000) 愛知県赤羽根町高齢者における死亡関連要因に関する疫学的研究. 平成11年度厚生省老人保健事業推進費等補助金による高齢者死亡に影響を及ぼす要因に関する調査研究事業報告書 96-106.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

- ① 甲田勝康, 中村美詠子, 伊東嘉津美, 小松治輝, 山崎晴美, 吹野治, 三輪真知子, 中村敏雄 (1999) 平成9年 静岡県脳卒中登録評価等事業報告書. 静岡県健康福祉部 静岡県総合健康センター

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

- ① 橋本勉, 森岡聖次, 横山徹爾, 田中平三, 松本美富士, 廣田良夫, 東條毅, 星恵子, 豊嶋英明, 藤原奈佳子, 渡辺能行, 児玉和紀, 二塚信, 橋本修二, 清水弘之, 永井正規, 佐々木隆一郎, 深尾彰, 中川秀昭, 櫃本真一, 守田則一, 森満, 日高良雄, 奥田聡, 川口毅, 能勢隆之, 稲葉裕, 青木伸雄, 川村孝, 大野良之, 戸嶋裕徳, 矢崎義雄, 佐藤篤彦, 安藤正幸, 武藤徹一郎, 縣俊彦, 新村真人, 西岡清, 大河原章, 橋本功, 原田征行, 酒匂崇, 五十嵐勇人, 二ノ宮節夫, 中島務, 柳田則之, 設楽哲也, 坂根剛. (1999) Pooled controlを用いた症例-対照研究 - 12疾患のオッズ比の観察 -. 厚生省特定疾患に関する疫学研究班 平成10年度研究業績集 127-132.
- ② 吉池信男, 市村喜美子, 石田裕美, 中村美詠子, 片桐あかね, 松村康弘, 岩岡浩子 (1999) 食事調査のためのデータベースならびにコンピュータプログラムの開発. 平成10年度 厚生科学研究費補助金健康科学総合研究事業 国民栄養調査の再構築に関する研究報告書 6-49.
- ③ 吉池信男, 中村美詠子, 岩浪京子 (1999) 残留農薬暴露量推定のための食物摂取データベースの開発に関する研究 平成10年度 厚生科学研究費補助金生活安全総合研究事業 食品中科学物質の相互作用等に関する調査研究.
- ④ 吉池信男, 市村喜美子, 石田裕美, 中村美詠子, 片桐あかね, 松村康弘, 岩岡浩子 (2000)

食事調査のためのデータベースの開発およびその評価，平成11年度 厚生科学研究費補助金
健康科学総合研究事業 国民栄養調査の再構築に関する研究報告書 8-20.

D. 筆頭著者，共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが，当該教室に所属する者が含まれるもの

(4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者，共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが，当該教室に所属する者が含まれるもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

D. 筆頭著者，共著者とも浜松医科大学に所属していなかったが，当該教室に所属する者が含まれるもの

平野賢二，片岡秀樹，長澤正通，中川原聖宜，根本正樹，白井直人，吉田賢一，川村素子，久保伸朗，杉本光繁，梶村昌良(1999) 卵殻状石灰化を有する非機能性悪性脾臓細胞腫瘍の1例．日本消化器病学会雑誌96(2):189-193

石井明，記野秀人，大野民生，寺田護，久保伸朗，梶村昌良，梶間弘美，荒木国興（1998）インドネシアで赤痢アメーバ症との診断を受け，帰国後クリプトスポリジウム症と診断された1例．Clinical Parasitology 9(1)99-100

(6) 国際学会発表

4 特許等の出願状況

	平成10年度	平成11年度
特許取得数（出願中含む）	0件	0件

[平成10年度]

[平成11年度]

5 医学研究費取得状況

	平成10年度	平成11年度
文部省科学研究費	0件 (万円)	0件 (万円)
厚生省科学研究費	1件 (100万円)	1件 (50万円)
他政府機関による研究助成	0件 (万円)	0件 (万円)
財団助成金	1件 (115万円)	1件 (190万円)
受託研究または共同研究	1件 (200万円)	0件 (万円)
奨学寄附金その他（民間より）	0件 (万円)	0件 (万円)

[平成10年度]

(1) 文部省科学研究費

(2) 厚生省科学研究費

青木伸雄（分担者）特定疾患に関する疫学研究班 100万円（継続） 代表者 名古屋大学医学部教授 大野良之

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

青木伸雄（分担者）老人保健福祉事業費等補助金「循環器疾患患者の日常生活動作阻害要因・予後と今後予想される社会的負担事業」115万円（継続） 代表者 琉球大学医学部教授 柗山幸志郎

(5) 受託研究または共同研究

青木伸雄（代表者）受託研究費「静岡県における県民健康基礎調査研究」200万円

[平成11年度]

(1) 文部省科学研究費

(2) 厚生省科学研究費

青木伸雄（分担者）特定疾患に関する疫学研究班 50万円 代表者 順天堂大学医学部教授 稲葉裕

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

青木伸雄（分担者）老人保健福祉事業費等補助金「高齢者死亡に影響を及ぼす要因に関する調査研究事業」70万円（継続） 代表者 九州大学医療技術短期大学教授 上田一雄

中村美詠子 かなえ医薬振興財団海外留学助成金「血圧の経時的変化とその関連要因が脳卒中及び虚血性心疾患に及ぼす影響の検討」120万円（新規）

(5) 受託研究または共同研究

6 特定研究などの大型プロジェクトの代表，総括

[平成10年度]

[平成11年度]

7 学会活動

	平成10年度	平成11年度
招待講演回数	0件	0件
国外国内シンポジウム発表数	0件	1件
学会座長回数	0件	4件
学会開催回数	1件	0件
学会役員等回数	6件	6件

[平成10年度]

(1) 学会における特別講演・招待講演

(2) 国際・国内シンポジウム発表

(3) 座長をした学会名

(4) 主催する学会名

① 青木伸雄 第44回東海公衆衛生学会，1998年7月，浜松

(5) 役職についている学会名とその役職

① 青木伸雄 日本栄養改善学会 理事

② 青木伸雄 東海公衆衛生学会 理事

③ 青木伸雄 日本循環器管理研究協議会 評議員

④ 青木伸雄 日本疫学会 評議員

⑤ 青木伸雄 日本公衆衛生学会 評議員

⑥ 青木伸雄 日本衛生学会 評議員

[平成11年度]

(1) 学会における特別講演・招待講演

(2) 国際・国内シンポジウム発表

青木伸雄(1999) 健康指標の県内較差と食生活, 第4回静岡健康・長寿学術フォーラム, 11月, 静岡

(3) 座長をした学会名

- ① 青木伸雄 第34回日本循環器管理研究協議会, 1999年6月, 沖縄
- ② 青木伸雄 第46回日本栄養改善学会, 1999年10月, 福島
- ③ 青木伸雄 第58回日本公衆衛生学会, 1999年10月, 大分
- ④ 青木伸雄 第4回静岡健康・長寿学術フォーラム, 1999年11月, 静岡

(4) 主催する学会名

(5) 役職についている学会名とその役職

- ① 青木伸雄 日本循環器管理研究協議会 理事
- ② 青木伸雄 日本栄養改善学会 理事
- ③ 青木伸雄 東海公衆衛生学会 理事
- ④ 青木伸雄 日本疫学会 評議員
- ⑤ 青木伸雄 日本公衆衛生学会 評議員
- ⑥ 青木伸雄 日本衛生学会 評議員

8 学術雑誌の編集への貢献

	平成10年度	平成11年度
学術雑誌編集数	0件	0件

[平成10年度]

[平成11年度]

9 共同研究の実施状況

	平成10年度	平成11年度
国際共同研究	1件	1件
国内共同研究	9件	8件
学内共同研究	1件	0件

[平成10年度]

(1) 国際共同研究

A. Rodgers (Clinical Trials Research Unit, The University of Auckland, New Zealand)他 東アジア

における脳卒中と虚血性心疾患に関する疫学的研究

(2) 国内共同研究

堀部博（椋山女学園大学生生活科学部）眼底検査の意義に関する疫学的研究

小嶋雅代（名古屋大学医学部），他 睡眠と全死因死亡との関連に関する疫学的研究

堀部博（椋山女学園大学生生活科学部），上島弘嗣（滋賀医科大学），他 全国調査に基づく心電図所見の生命予後に関する研究

吹野洋子（静岡県立大学食品栄養科学部），他 緑茶飲用と健康との関連に関する研究

堀部博（椋山女学園大学生生活科学部），他 赤羽根町における高齢者の健康・福祉に関する疫学的研究

堀部博，他（椋山女学園大学生生活科学部）地域における介護状態，日常生活適応度，幸せ度の関連因子に関する研究

中島務（名古屋大学医学部），他 突発性難聴に関する症例－対照研究

山田琢之（愛知医科大学医学部）高温下温室内作業に関する調査研究

吉池信男（国立健康・栄養研究所），他 国民栄養調査の再構築に関する研究

(3) 学内共同研究

甲田勝康（公衆衛生学），他 静岡県における脳卒中に関する疫学的研究

[平成11年度]

(1) 国際共同研究

A.Rodgers（Clinical Trials Research Unit, The University of Auckland, New Zealand）他 アジア・太平洋地域におけるコホート共同研究

(2) 国内共同研究

小嶋雅代（名古屋大学医学部），他 睡眠と全死因死亡との関連に関する疫学的研究

堀部博（椋山女学園大学生生活科学部），上島弘嗣（滋賀医科大学），他 全国調査に基づく心電図所見の生命予後に関する研究

吹野洋子（静岡県立大学食品栄養科学部），他 緑茶飲用と健康との関連に関する研究

堀部博（椋山女学園大学生生活科学部），他 赤羽根町における高齢者の健康・福祉に関する疫学的研究

山田琢之（愛知医科大学医学部），他 ハウス農業従事者における作業標準の策定に関する研究

中島務（名古屋大学医学部），他 突発性難聴のリスクファクターに関する疫学的研究

吉池信男（国立健康・栄養研究所），他 国民栄養調査の再構築に関する研究

白木まさ子（静岡県立大学短期大学部），他 食事調査方法論に関する基礎的研究

(3) 学内共同研究

10 産学共同研究

	平成10年度	平成11年度
産学共同研究	0件	0件

[平成10年度]

[平成11年度]

11 受賞(学会賞等)

[平成10年度]

[平成11年度]

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 眼底検査の意義に関する疫学的研究

糖尿病性網膜症は糖尿病の3大合併症の一つであり、その発症・進行を予防することは今日の公衆衛生施策上の重要な課題である。そこで、一地域集団において、糖尿病・高血糖、眼底出血・白斑と医学的検査所見、食生活との関係を検討した。結論として、糖尿病(あるいは高血糖)があり、眼底出血、白斑がみられる者は、特に、高血圧、肥満、高脂血症などの合併症に対する注意が必要と考えられた。また、これらの者には、適切なエネルギー摂取量をとることを重視した食事指導が大切であると考えられた。

(青木伸雄, 中村美詠子, 堀部博)

2 睡眠と全死因死亡との関連に関する疫学的研究

睡眠は蛋白合成, 内分泌, 免疫と関連している。睡眠と健康に関する詳細な疫学的研究は比較的少なく、特に睡眠の質と死亡との関連についての研究は稀である。そこで一集団コホートにおいて、健康と睡眠を含む生活様式について自記式アンケート調査を行い、平均12年間追跡し、全死因死亡との関係を検討した。7-8時間の睡眠と比較し、長い(10時間以上)、あるいは短い(7時間未満)睡眠は、男では全死因死亡のリスクを高めており、また、男ではすぐに眠れる者の全死因死亡率は最も低かった。

(小嶋雅代, 岩井建志, 青木伸雄, 他)

3 緑茶飲用と健康に関する調査研究

健康長寿に重要な高齢者の健康と栄養摂取との関連についての疫学的調査研究は比較的少ないので、高齢者における緑茶飲用と健康との関連について検討した。静岡県下3地区の65-75歳の男女637人(寝たきり者を除く)を対象とし、調査研究を行った。緑茶摂取量の多い群は少ない群よりも、エネルギー・全ての栄養素摂取量が多かった。茶量(夏季)と総コレステロール, GOT, GPT, HDL-コレステロール値との間には望ましい関連がみられ、また、血色素量とはほとんど関連がなく、緑茶の濃さと血糖とは負の関連が見られた。

(吹野洋子, 青木伸雄, 他)

4 一地域における高齢者健康指標と疾病保有状況, 社会福祉資源利用状況との関連

高齢者の健康の維持増進を目指した効果的な健康福祉対策確立の一助として本研究を行った。一地域の65歳以上の高齢者全員を対象とした。高齢者の健康・生活状況を簡易に把握する指標を得るために, Barthel Index10項目, 老研式活動能力指標13項目, QOL指標3項目を用いて因子分析を行った。第1因子は手段的自立, 第2因子は身体的自立, 第3因子は知的・社会的活動, 第4因子は生活充足感として12項目を抽出した。手段的自立は年齢と, 身体的自立, 知的・社会的活動, 生活充足感は痴呆と正相関がみられた。また, 保健・医療・福祉サービスと生活充足感の低下との間にも密接な関連がみられた。

(青木伸雄, 中村美詠子, 久保伸朗, 堀部博, 他)

5 東アジアにおける脳卒中と虚血性心疾患に関する疫学的研究

高血圧やコレステロールは循環器疾患発症の重要な決定因子である。しかし, これらに関する大規模なコホート研究やメタアナリシスは欧米を中心に行われてきており, アジアにおいてそのリスクの量的影響を正確に評価した研究はなかった。リスクの量的評価は, その地域における循環器疾患予防戦略の優先化に必須である。本研究は, 日本と中国の18のコホートによるメタアナリシスであり, 12万5千人を分析対象としている。血圧及び血清総コレステロールが, 脳卒中及び虚血性心疾患に及ぼす影響について量的評価を行い, 血圧が脳卒中に及ぼす影響は西洋に比べて東アジアでより強いこと, コレステロールが虚血性心疾患に及ぼす影響は西洋とほぼ同程度であること, また, 通常の拡張期血圧3mmHg+コレステロール0.3mmol/lの低下により, 東アジアにおける脳卒中と虚血性心疾患のリスクは約1/3に低下すること等が明らかとなった。

(Eastern Stroke and Coronary Heart Disease Collaborative Project, A Rodgers¹, S MacMahon², 中村美詠子, 青木伸雄, 他)¹The University of Auckland, New Zealand, ²The University of Sydney, Australia

6 アジア・太平洋地域におけるコホート共同研究

アジア・太平洋地域における今後の疾患予防戦略の優先化を行うためには, がんや脳卒中, 虚血性心疾患等の循環器疾患等と血圧, 総コレステロール, 喫煙, 飲酒等のリスクファクターとの関連を量的に評価する必要がある。本研究は, 日本, 中国のほか, 韓国, 香港, 台湾, シンガポール, タイ, オーストラリア, ニュージーランドの約60のコホートによる約50万人を分析対象としたメタアナリシスである。アジア・太平洋地域全体に関する評価を行うほか, 先進国と開発途上国間, 及び人種間における比較等も行い, この地域における疾患とそのリスクファクターに関する有用な知見が提供されるものと期待される。本研究は現在データ収集, 及びコーディング等の統一化, データクリーニング等が終了し, 最終的な分析を行っている段階である。

(Asia-Pacific Cohort Studies Collaboration, A Rodgers¹, H Xin², MacMahon², 中村美詠子, 青木伸雄, 他)¹The University of Auckland, New Zealand, ²The University of Sydney, Australia

7 突発性難聴に関する症例対照研究

突発性難聴は、厚生省特定疾患の一つである。循環障害、感染等の発症機序が推定されているが依然としてその詳細は不明であり、確立された治療法も現在のところない。また、突発性難聴に関する疫学研究は世界的にも限られており、そのリスクファクターもほとんど明らかにされていない。本研究は、突発性難聴と生活習慣との関連を明らかにする目的で実施された全国規模による症例対照研究であり、対照としてあらかじめ構築されたpooled-controlを用いている。その結果、循環器疾患リスクファクターである、西洋型の食事、多量飲酒等が突発性難聴のリスクを高め、また日本型の食事はリスクを下げる事が明らかとなった。

(中村美詠子, 青木伸雄, 中島務¹, 星野知之)¹名古屋大学

8 突発性難聴のリスクファクターに関する疫学的研究

突発性難聴はその発症が「突然」であることから、発症前における生活習慣などの要因の変化を見ることにより、これらの要因との関連がより明らかになるものと推定される。本研究はケースクロスオーバー研究の手法を加えた症例対照研究であり、研究7により明らかになった飲酒等との関連について、発症における時間的要因等も考慮し検討することを目的としている。本研究は現在実施に向けて進行中であり、研究プロトコール作成の最終段階にある。

(中村美詠子, 青木伸雄, 中島務¹, 星野知之, 久保伸朗)¹名古屋大学

9 高温下温室内作業に関する調査研究

循環器疾患の最大の決定要因である血圧は、高食塩摂取と関連している。温室労働従事者では発汗量が非常に多く、また食事からの食塩摂取量も多い傾向にある。本研究は高温下労働における作業環境等の実態を明らかにすること、高温下温室労働が労働者の循環動態に与える影響、及び発汗量について検討し、温室労働者の産業衛生的管理、及び健康管理をすすめていく際の基礎的知見を得ることを目的として実施された。産業衛生管理上は、発汗量には作業環境条件のみならず、作業条件が大きく影響し、高温下温室内作業という特殊な条件下においても、基本的な作業管理の重要性が確認された。本研究は今後、温室内作業管理マニュアルの作成、健康管理的視点からの分析等をすすめる予定である。

(中村美詠子, 山田琢之¹, 青木伸雄, 久保伸朗)¹愛知医科大学

10. 食事調査方法論に関する基礎的研究

栄養疫学研究を推進する上で、食事調査の方法論の確立は必須であるが、わが国においてはこれに関する基礎的研究が非常に少ない。これは、欧米とはきわめて異なるわが国の食習慣や、明確な四季があるための季節変動の影響等も関連している。本研究は、食事調査の方法論に関する基礎的検討をすすめ、わが国における栄養疫学研究の推進に寄与することを目的とする。本プロジェクトは、現在、調査が終了し、分析中である。

(中村美詠子, 青木伸雄, 白木まさ子¹, 大石邦枝¹)¹静岡県立大学

11. 国民栄養調査の再構築に関する研究

国民栄養調査は、栄養改善法に基づき、低栄養状態の改善を主たる目的として実施されてきた。しかし、食糧事情や疾病構造が変化した現在、あらたなニーズに対応した改革が必要とされている。本研究は、国民栄養調査の再構築に当たり、調査方法論上の基礎的問題点を把握し、その改善策を示すことを目的としている。まず、国民栄養調査の方法論に関する検討から、各種のエラー要因の解消のためには、処理のコンピューター化が必須であることが提言され、新システム（国民栄養調査システム）を開発してきた。また、システム上必要な各種データベースの構築を試みた。しかし、このデータベースの構築のためには、未だ基礎的資料が十分ではないことが明らかとなった。データベースの充実、完成に関しては今後の課題であるが、新システムは国民栄養調査の精度を飛躍的に向上させ、生活習慣病予防に有用な栄養疫学的調査としての確立に貢献すると期待される。

(吉池信男¹、石田裕美²、中村美詠子、片桐あかね³) ¹国立健康栄養研究所、²女子栄養大学、³東京大学

12. 静岡県における脳卒中に関する疫学的研究

静岡県において脳卒中予防から、発生患者の社会復帰を含めた一貫した脳卒中对策を推進するために、脳卒中発生の実態を把握した。平成9年度に登録された件数は1541件であり、前年より若干減少していた。出血性疾患では男女とも50歳代後半から70歳代での発症がピークを示したが、虚血性疾患では男性60～74歳、女性70～89歳でピークを示した。

(静岡県健康福祉部、静岡県総合健康センター、甲田勝康、中村美詠子)

13 この期間中の特筆すべき業績、新技術の開発

東アジアにおける脳卒中と虚血性心疾患に関する疫学的研究においては、大規模な国際共同研究により、本地域における血圧及び血清総コレステロールが、脳卒中及び虚血性心疾患に及ぼすリスクの量的影響が明らかとなった。この知見は、本地域における循環器疾患予防戦略の優先化に有用であり、今後、血圧及び血清総コレステロールのより積極的なコントロールによる循環器疾患予防への取り組みが、本地域における重要な健康課題であることが提言された。

突発性難聴に関する症例対照研究では、現在までほとんど知見のなかった突発性難聴に関する疫学的リスクファクターのいくつかが明らかとなった。食事や飲酒との生活習慣と突発性難聴の関連は、今後の予防対策に直接的に結びつけることが可能である。近年増加傾向にあるにも関わらず、依然として標準的な治療法が確立していない本疾患対策として、本知見は有用であると考えられる。

14 研究の独創性、国際性、継続性、応用性

東アジアにおける脳卒中と虚血性心疾患に関する疫学的研究、及びアジア・太平洋地域におけるコホート共同研究は、アジアにおける大規模国際共同研究であり、本研究で得られる知見は、日本における疾病予防対策や、本地域における疾病予防対策のみならず、WHOにおける世界的な疾病対策の優先化にも用いられている。アジアにおけるこれらの知見は西洋に比べ圧倒的に不足しており、さらに今後もその膨大なデータから貴重な知見を提供し続けていくものと期待される。

突発性難聴に関する症例対照研究により、西洋型の食事がリスク要因であり、日本型の食事がリ

スク低下要因であることが明らかにされた。この知見は、高脂肪食やそれに関連する凝固能の亢進等が突発性難聴の発症機序に関与している可能性を示唆するものと考えられ、今後の突発性難聴の発症機序解明に関する臨床的、実験的研究に対して貴重な情報提供となり得るものと考えられる。

15 新聞、雑誌等による報道